

(特選)

☆竹林を抜ける風の薫かな

玄舟

五月の爽やかな風が竹林を吹き抜けている。作者は佇んで薫風を楽しんでいる。風に薫があると捉えたところに発見が有る秀句。

・ひっそりと地蔵にかかる竹落葉

けんじ

竹落葉がお地藏さまの肩などにはらはりと散っている。上五の『ひっそりと』が竹林の静寂な情景を捉えている。素直に写生した秀句である。

(入選)

・静寂の古刹の庭や緑さす

繁好

・枯山水夏うぐひすの声しきり

忠男

・石楠花の迎へる寺や閑かなる

かつを

(佳作)

・百幹の竹林抜くる若葉風

一江

・若竹やむき出しの幹露はしる

よしまさ

・枯山水古刹の庭に苔青し

忠男

・風薫る古刹の庭の小鳥かな

けんじ

・春風や谷戸の谷川鯉泳ぎ

きよし

・水琴窟音のかそけき花南天

一江

・夏めくや枯山水に人の群

忠男

・武士の古き窟や若葉風

繁好

・万緑につつま抱かれ浄妙寺

かつを

・苔茂る枯山水の古刹かな

繁好

・外つ国の人ばかりなり竹の秋

かつを

・芍薬の淡きピンクの古刹かな

けんじ

・新茶汲む枯山水の和室かな

忠男